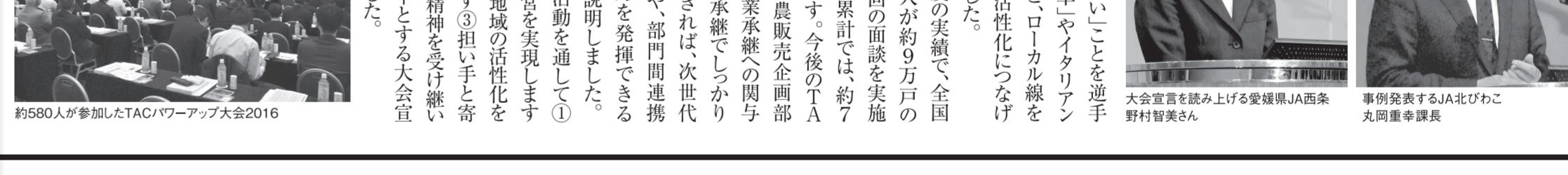
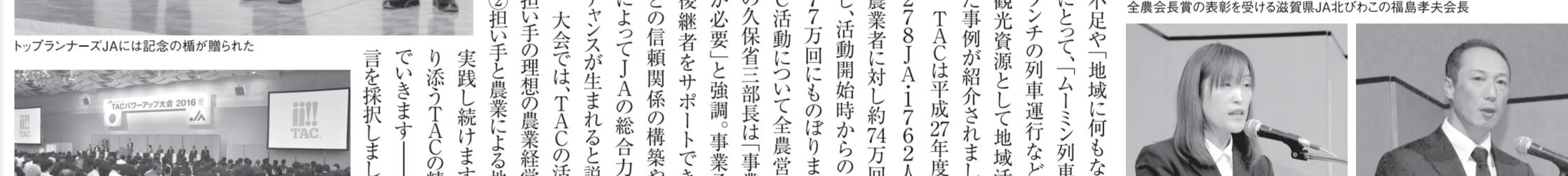
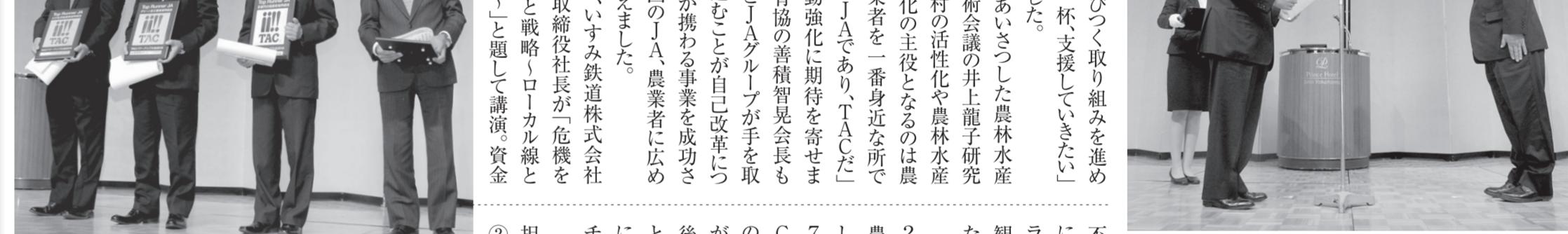


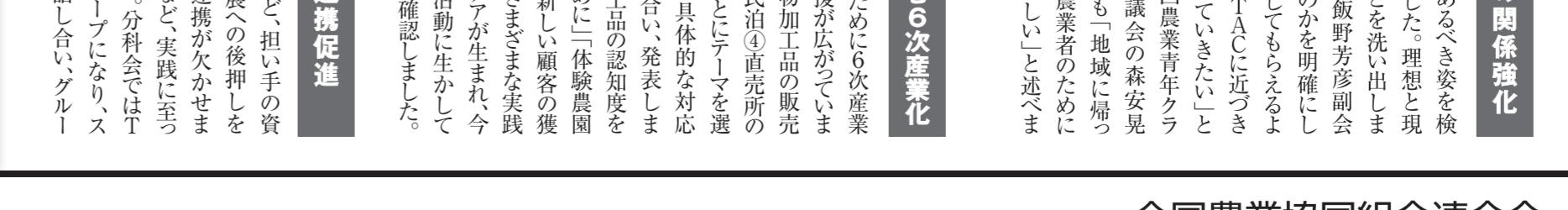
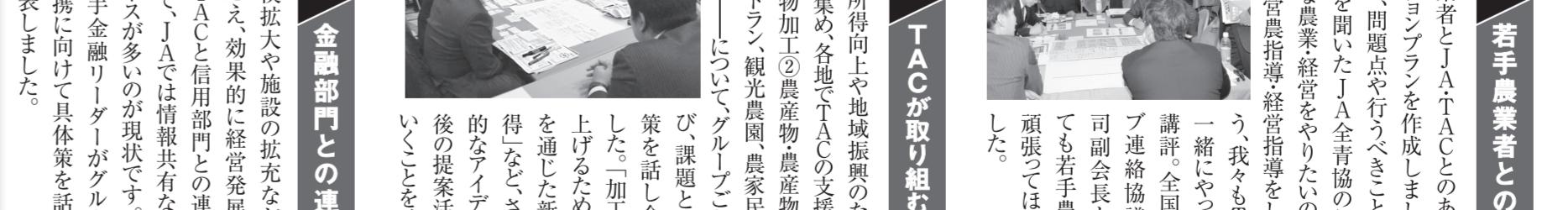
2016を開催!! TACパワーアップ大会

今年のTACパワーアップ大会は、将来にわたり地域農業の核となる若手農業者・農業法人と関係を強化することや、農家を取りの最大化・地域活性化につながる取り組みの実践などをテーマとし、活気あふれる大



参加者による 分科会

6つの分科会で議論しました。



TACの本設置JAを中心とした役員のTACへの理解促進や、JA活動積極活用に対する意見交換を行いました。

NEW! トップランナーズJA

ii!!TAC
Top Runner JA

過去の大会(2008~2015年)で3回以上「JA表彰」を受賞したJAのうち、高いレベルの活動を維持しているJAを今大会から「トップランナーズJA」として表彰しました。TACの提案を通じた狙い手の課題解決と経営改善の継続や、事業実績の向上が見られるJAが受賞し、全国のTACの模範となる優良な活動事例を広く紹介してもらいました。

静岡県 JAとびあ浜松

事業間連携で所得向上を後押し

TACの活動量をデータ化し、狙い手への定期訪問の管理手法を確立(2011大会)。狙い手に「経営意向調査」を実施、TACと融資担当者の再訪問する「狙い手支援訪問活動」を実践(2013大会)。中核的担い手農家の農業所得30%アップに着手し、栽培・経営計画の実行にJA全体で多角的に支援(2015大会)。訪問管理手法の確立や事業間連携、JAの総合事業を発揮した狙い手の所得向上を後押しする取り組みが、全国のTAC活動の模範となり、地域農業の振興にも寄与した。

滋賀県 JAグリーン近江

狙い手に必要とされるJA目指す

米・麦・大豆に特産園芸品目を加える経営の高度化・多角化を提案、TACチャレンジ事業による支援やJA出資法人連絡協議会の設立を行った(2012大会)。環境こだわり米などの提案と米集荷対策を実施し、狙い手との信頼関係を構築した(2013大会)。農業法人間の連携や若手農業者対応を進め、狙い手とJAがかかわりを深める取り組みを行った(2015大会)。TACは若手職員が多く配置して役割を認識させ、狙い手に必要とされるJAを目指し新たな取り組みを展開した。

京都府 JA京都にのくに

職員の育成へTACスクール

統一名称「TAC」の決定前から狙い手訪問を行い、京都初の米のフレコン出荷(2008大会)やリース支払事業の実用提案、狙い手への個別提案を実施(2009大会)。食味米研究会を立ち上げ、狙い手との信頼関係を構築した(2010大会)。農業法人への新規品目の作付提案や水稲・水稲での緊急融資対策や當農活動の継続に貢献した(2011大会)。TAC設置から10年。新規就農者だった狙い手が今JA中央会員へ成長。また、次期TAC育成を視野に入れた「TACスクール」を実施している。

熊本県 JAやつしろ

TAC訪問「見える化」し総合力發揮

狙い手に加工用キヤッペを提案し、JA内部と狙い手、双方の窓口として役割を発揮した(2008大会)。い草農家には施肥作業の省力化を推進して品質・所得向上を実現。JAの事業利用拡大にも貢献した(2009大会)。TACの訪問結果を見える化で各部門で共有することで法人対応を実践し、狙い手との信頼関係を構築した(2013大会)。農業法人間の連携や若手農業者対応を進め、狙い手とJAがかかわりを深める取り組みを行った(2015大会)。TACは若手職員が多く配置して役割を認識させ、狙い手に必要とされるJAを目指し新たな取り組みを展開した。

NEW! 拘い手向け TAC通信コンテスト



TAC表彰 受賞者

►► 若手農業者や農業法人への提案内容に新規性、創造性があり、その成果の優れたTACを表彰しました。

北海道 JAあさひかわ

當農企画部 農業課 調査役
小中 和彦氏

副産物×副産物
=ブランド牛

農業法人の経営安定のため、生乳生産の副産物・ホルスティン種の肉牛に、地元の酒造から出る副産物・酒粕を食べさせ、「旭高砂牛」としてブランド化した。TACを中心に産官学が連携。商標登録を取得したり、メディアを活用したプロモーションを実施したりした他、地元スパークや首都圏・札幌の飲食店にも販路開拓した。

山形県 JAさくらんぼひがし

當農企画部 農業課 調査役
堀米 亮平氏

新技術によるもの所
得倍増計画 その名も
「ハイブリッド仕立て」

苗木の購入助成などJAが产地確立を目指す桃で新たに立ち方を提案した。全国の产地を視察し長所を合わせた「ハイブリッド仕立て」で、桃の間隔を広げたり、剪定量を大幅に減らし、出てきた枝をすべて使う。収量率・等級、食味の面で慣行区を上回る成果が出た。JAの共通福利用が増え、今後は販売高の増加も見込む。

茨城県 JA常陸

當農企画部 農業課 調査役
青山 政弘氏

未利用法人・若手担
い手の多岐にわたる
課題解決とJA利用の
向上

水稻栽培のコスト低減と省力化のためTAC・経済部門・メーカー・全農企画部で協議を重ね、低コスト生産技術「苗箱ませ」を提案。狙い手を根気強く訪問することでJAとの関わりを強化した。土壌診断件数も大幅に増加。記帳代行や設備投資への融資提案、栽培時期に合わせた研修会等、狙い手の要望に的確に対応している。

新潟県 JA越後中央

担当手取支援班 調査役
遠藤 茂行氏

若手農業女子交流・
ネットワーク構築によ
る農業法人の手取り
向上

農業法人の女性従業員からの要望をきっかけに「若手農業女子同士の交流・ネットワークの構築」と「新たな作物(園芸作物)導入」を提案。水稻栽培での農機講習や育苗ハウスを利用した園芸作物の栽培基礎講習を開催し、若手農業女子同士の接点づくりを行った。園芸作物では農業法人の所得向上と地域の園芸振興に貢献した。

石川県 JA松任

當農部 常農課 調査役
木田 敦志氏

「山島の農地は地域
で守る」~持続可能な
農業経営体の支援~

作業の効率化を求める農業法人に、省力・低コスト技術の密苗移植栽培を提案して育苗管理と田植補助作業の負担軽減に貢献。白ネギでは機械化作業体系による省力化を提案した他、作業調整計画を作成し作業を効率化した。地元スパークとの連携支援、若手従業員の人材育成等、農業法人の経営改善へ多様な提案を行った。

愛媛県 JA西条

當農部 常農課 調査役
野村 智美氏

水の都西条「網かわな
す」の反収UP×販売
力強化で農家手取り
が向上

地域伝統野菜「網かわなす」の产地維持のため、定期的な栄養診断による肥培管理の数値化や防除作戦の高い農業を使うローテーション防除を提案、反収の底上げを実現した。販促グッズの充実や県外での試食販売など積極的なプロモーション活動も展開。生産から販売まで一貫して対応し、農家所得と生産意欲の向上に寄与した。

福岡県 JAみなみ筑後

當農部 担当手取支援課 係長
坂口 浩二氏

新規就農者を地域の
担い手へと育てる常
農・経営支援

新規就農者に農業・経営の両面から支援を実施。制度や遊休施設の活用など多様な取り組みが評価された。個人の事情をくみ取った提案により新規就農者は12人に増加。JAでは部会員の增加点も大幅に増えた。特にいちご栽培と農業生産の維持拡大ができた。特にいちご栽培の拡大に貢献し、JAの事業拡大につながっている。